

JIMGAnews

第42号

平成29年度JIMGA産業ガス保安セミナーの開催について

平成29年度のJIMGA地域本部が主催する産業ガス保安セミナーの開催についてご案内します。産業ガス保安セミナーは、JIMGAが発行している技術文書や基準類の解説と、高圧ガス保安法やJISなどの産業ガスに関連する動向について、最新の情報を提供するものです。

今年度は表に示したテーマについて、各地域本部にて開催されます。一部の地域本部では既に開催されましたが、これから開催予定の保安セミナーがほとんどですので、皆様奮ってご参加ください。詳細は各地域本部事務局にお問い合わせください。

平成29年度JIMGA産業ガス保安セミナー開催日程

地域本部	日程／会場	テーマ
北海道	11月22日(水) エア・ウォーター	1. JIS(酸素・アルゴン)の改訂 2. e-ラーニング「溶解アセチレンの安全な取扱い」 3. 「酸素ガス充てん所作業基準」
東北	(計画中)	
関東	9月15日(金)【開催済み】 エッサム本社ビル	1. 高圧ガス販売事業所自己診断指針第2刷 2. 「安全統計資料 ヒヤリハット・事故事例から学ぶ保安」
東海 北陸	12月7日(木) ウインクあいち	1. 「安全統計資料 ヒヤリハット・事故事例から学ぶ保安」 2. 「酸素ガス充てん所作業基準」 3. JIS(酸素・アルゴン)改訂 4. CE附属品の取扱い(液面計編)
近畿	2月7日(水)	(検計中)
中国	2月15日(木) RCC文化センター	1. 「安全統計資料 ヒヤリハット・事故事例から学ぶ保安」 2. 「e-ラーニング:溶解アセチレンの安全な取扱い」 3. 「JIMGA CE検査基準のKHKS化」
四国	8月24日(木)【開催済み】 ホテルパールガーデン	1. 「産業・医療ガスの臭気判定について」 2. 「酸素ガス充填所作業基準」 3. CEに関するQ&A
九州	(計画中)	

(技術・保安部会 事務局 徳富 栄一郎)

明治150年について(政府より)

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年に当たります。政府では、内閣官房副長官を議長とする「明治150年」関連施策各府省連絡会議」を設け、①「明治以降の歩みを次世代に遺す施策」、②「明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策」、③「明治150年に向けた機運を高めていく施策」の3つを柱として、政府一体となって「明治150年」関連施策を推進しているところです。国だけでなく、地方公共団体や民間も含めて、日本各地で、「明治150年」に関連する多様な取組が推進されるよう、ロゴマークの使用促進や広報などを通じて、「明治150年」に向けた機運の醸成を図っています。詳しくは以下のホームページを御覧ください。



<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/>

会員紹介 一新潟高圧ガス株式会社

新潟高圧ガス株式会社 新潟工場は、新潟市の新潟駅と新潟空港のちょうど中間に位置し、アセチレンガスの製造・充填を行っております。

沿革

当社は、1978年（昭和53年）9月に新潟アセチレン(株)、(株)カネコ商会など新潟県のメーカー、地元有力ディーラーと相呼応し、高圧ガス工業(株)が昭和電工(株)の子会社である旧(株)新潟電工よりアセチレンガス製造設備一式を買い取り、アセチレンガスの製造および販売を目的として設立されました。

同年10月には、地元業界に供給実績と影響力を持つテイサン(株)とサカキ産業(株)にも追加参画をいただき、3社共同体制から5社共同体制となりました。

現在は高圧ガス工業(株)、(株)カネコ商会、サカキ産業(株)、エア・リキード工業ガス(株)の4社共同体制となっております。

JIMGAとの関わり

当社はJIMGAが毎年開催している高圧ガス消費者保安講習会に参加するとともに、微力ながら開催や運営に協力しております。また、アセチレン容器のノンアスベスト化に向けての更新活動や、容器管理の徹底、不明容器の回収活動にも取り組んでおります。

災害対策について

近年、地震等の自然災害が続いておりますが、6年前の東日本大震災の時に新潟から救援物資を運んだ事例もあり、日本海側と太平洋側で協力体制を密に取って有事の際に備えております。



正門から見た敷地内の様子



工場外観

近況と今後の取り組み

弊社は小さな工場ではありますが、それ故に隅々まで目が行き届きやすいという利点があります。

例えば、配管やガスホルダーなど毎年社員自らが塗装していますが、その際に可燃性ガス設備ということもあり機械を使わずに手作業でヤスリをかけ、設備を直接手で触ることにより腐食の状況などを把握し、補修や取り替えの必要な箇所を容易に発見することができます。

また、5S活動やKY活動を通じて、必要な点検項目・作業手順の見直しを行っております。

1978年の設立から来年2018年で40周年を迎えます。これまで39年間無事故でこられたことの上にあぐらをかくことなく、一度でも事故を起こせば終わりという気持ちで、今後も安全・安心をモットーに無事故・安定供給に努めてまいりたいと思っております。

(新潟高圧ガス株式会社 取締役工場長 松本 英明)



アセチレンガスホルダー

平成29年度上期 国際整合化文書の発行

平成29年4月以降に下記5件の国際整合化文書（参考文書）をJIMGAウェブサイトに掲載いたしました。

No.	書籍名	基準番号	判型	発行年月日
40	残圧保持弁の使用	IHC-Doc/40/17	A4	H29.4
41	往復動酸素圧縮機安全指針	IHC-Doc/41/17	A4	H29.7
42	液化酸素や低温ガス酸素用バルブの設計、製造、据付、運転及び保全	IHC-Doc/42/17	A4	H29.7
43	水素用圧カスイング吸着(PSA)装置の機械保全	IHC-Doc/43/17	A4	H29.8
44	NF3(三フッ化窒素)の安全な取扱い指針	IHC-Doc/44/17	A4	H29.9

これらは、IHCメンバー4協会が国際整合化基準（英語）として発行した文書をJIMGAの国際整合化文書（参考文書）として、基準内容の把握ができるように、目次、はじめに、適用の項目を日本語に翻訳し発行したものです。各国の法規等の違いで、内容は必ずしも日本の国内法に則ったものではありませんが、会員の皆様から『国内法に準拠した内容に改め、JIMGA基準とすべきである』というご要望をいただいた場合は、JIMGA基準化を検討いたします。ぜひご意見・ご要望等を国際部会事務局までお寄せください。

国際整合化文書は、下記リンク先よりご覧ください。
<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7074#list07>

IOMA Broadcaster 岩谷産業 記事のご紹介

2017年10月にIOMA（酸素製造者協会）の広報誌 Broadcasterに岩谷産業株式会社の記事が掲載されました。JIMGAウェブサイトの国際整合化委員会（IHC）活動紹介ページにBroadcasterと日本語訳を掲載しましたので、お知らせいたします。

この活動は、IOMAの国際委員会（GC）のメンバーが各社のIHC活動を紹介するもので、2015年4月より掲載が始まりました。今回の掲載で6社目となります。

下記リンク先より、過去の記事もご覧になることができます。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/ptlist.phtml?Category=10024>



Broadcaster
2017年9月号

（国際部会 事務局 羽坂 智）

新事務局員の紹介



名 前：原 浩一（はら こういち）

現住所：埼玉県所沢市

出身地：北海道

生年月：1966年7月

略 歴：1989年4月 株式会社ほくさん（現：エア・ウォーター株式会社）入社

2000年4月 エア・ウォーター株式会社 住設事業部

2003年5月 エア・ウォーター株式会社 医療事業部

2013年4月 株式会社テック 出向

2017年9月 JIMGA 常務執行役員

趣 味： 長男が高校球児だったこともあり、夏の全国大会を（TV）観戦するのが毎年7～8月の恒例行事です。どちらかと言えば甲子園よりも地方大会を好んでおります。

抱 負： これまで経験したことのない職務にあたたかな気持ちで取り組んで参ります。四の五の言わず、まず実行。皆様、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。